

議事要旨(3) ASAF対応専門委員会における検討状況

冒頭、小賀坂副委員長より、2016 年 4 月開催の会計基準アドバイザー・フォーラム（以下「ASAF」という。）会議の審議の状況、概念フレームワークの見直しに関する IASB における議論の状況及びのれんに関する IASB における議論の状況についてのご報告を行う旨が説明された。その後、川西常勤委員及び板橋ディレクターより、審議資料に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

ASAF 会議

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - ハンス議長が、IFRS の基準の狭い範囲の修正がそれほど多くないと言っている一方で、公開草案の公表頻度は多いと言っているが、どういうことか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- 狭い範囲の修正は、IFRS 全体の分量に比べるとそれほど多くないという意味であるが、ハンス議長も修正の数自体はそれなりにあることは認めた。修正の頻度については、テーマごとにまとめて公表するなどにより、同一テーマについて修正がまとめて行われる方が毎年少しずつ変わるよりも利用者にとって便利であり、そのことはハンス議長も検討してもよいかもしれないということであった。

概念フレームワーク

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 測定の議論において IASB 理事の発言にあった積極的なアプローチ B（アグレッシブ B）と慎重なアプローチ C（プルーデント C）との関係について教えてほしい。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- アプローチ B は、公開草案の提案を維持して少し手を加える程度であるが、アプローチ C は、公開草案を出発点に積極的に開発していくということであり、IASB 会議ではアプローチ B の積極版（アグレッシブ B）とアプローチ C の慎重版（プルーデント C）は、ほぼ同じ意味で用いられていたと理解している。

のれん

- ある委員より、次のコメントがあった。
 - 合併における識別可能資産の識別に関する ASBJ の見解を教えてほしい。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

➤ のれんを償却するか否かによって無形資産の識別に関する姿勢も変わってくる。のれんの非償却は、無形資産の識別を適切に行うという前提で始まっている話であり、逆に言えば、のれんが償却されるなら無形資産の識別はそれほど適切に行わなくてもよいという考え方もある。ただし、議論の焦点を絞るため、無形資産については今まで積極的に発言していない。最終的にはのれんが償却されることを目指している。

■ ある委員より、次のコメントがあった。

➤ PAH アプローチは、実際に行うとしたら大変だと思うが、どの程度真剣に考えているのか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

➤ のれんが減っていかない、減損損失の認識が遅すぎる、少なすぎるという共通認識があり、どうしたら改善できるのか、何かしたいという中で出てきたアイディアの 1 つという認識である。

■ ある委員より、次のコメントがあった。

➤ PAH の金額が固定されるとすると、PAH を測定した当初は意味があるけれども、その後はそれを使ってもあまり意味がないような気がするが、その理解で正しいか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

➤ PAH は当初の金額で固定し、その後の変動は無視されるので、その理解で正しい。

■ ある委員より、次のコメントがあった。

➤ 今回の提案は簡素化にはなっていない感じがするが、簡素化の件はどうなったのか。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

➤ 審議資料は、PAH を当初計算した後、再計算しないことが最大の簡素化であるとしている。

以 上